

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分  
 【発行日】平成 19 年 10 月 11 日 (2007.10.11)

【公開番号】特開 2006-255123 (P2006-255123A)  
 【公開日】平成 18 年 9 月 28 日 (2006.9.28)  
 【年通号数】公開・登録公報 2006-038  
 【出願番号】特願 2005-76086 (P2005-76086)  
 【国際特許分類】

**A 6 3 F 5/04 (2006.01)**

【F I】

A 6 3 F 5/04 5 1 2 Z

A 6 3 F 5/04 5 1 2 C

【手続補正書】  
 【提出日】平成 19 年 8 月 24 日 (2007.8.24)  
 【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】特許請求の範囲  
 【補正対象項目名】全文  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【特許請求の範囲】  
 【請求項 1】

遊技機の筐体内に設けられ、所要の電子部品を装備した制御回路基板を収容するケース蓋及びケース基体がヒンジ機構を介して互いに開閉揺動可能に接続される遊技機用基板ケースであって、

前記ケース蓋の所定の側壁部分を外方の第 1 壁と内方の第 2 壁との 2 重に形成するとともに、内方の前記第 2 壁の端辺で当該端辺に沿う方向にヒンジ軸を形成し、

前記ヒンジ軸に対向する前記ケース基体の側壁に、当該ケース基体の底板の端の位置から外方へ延設する顎部と、該顎部と一体をなして当該側壁の法線方向に開口を有する弧状のヒンジ軸受とを形成することで、

前記ヒンジ軸が前記ヒンジ軸受に嵌合されてなる前記ヒンジ機構を前記ケース蓋の前記第 1 壁の内側に設けたことを特徴とする遊技機用基板ケース。

【請求項 2】

前記ケース蓋の前記第 1 壁と前記第 2 壁とが対向する隙間の所定箇所に、当該側壁部分の端辺と端を同じくすることで前記顎部の過度の挿入を規制するリブを設けたことを特徴とする請求項 1 に記載の遊技機用基板ケース。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0 0 0 9  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【0 0 0 9】

上述した課題を解決するため、請求項 1 に記載の発明は、遊技機の筐体内に設けられ、所要の電子部品を装備した制御回路基板を収容するケース蓋及びケース基体がヒンジ機構を介して互いに開閉揺動可能に接続される遊技機用基板ケースであって、前記ケース蓋の所定の側壁部分を外方の第 1 壁と内方の第 2 壁との 2 重に形成するとともに、内方の前記第 2 壁の端辺で当該端辺に沿う方向にヒンジ軸を形成し、前記ヒンジ軸に対向する前記ケース基体の側壁に、当該ケース基体の底板の端の位置から外方へ延設する顎部と、該顎部と一体をなして当該側壁の法線方向に開口を有する弧状のヒンジ軸受とを形成することで

、前記ヒンジ軸が前記ヒンジ軸受に嵌合されてなる前記ヒンジ機構を前記ケース蓋の前記第1壁の内側に設けたことを特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

請求項1に記載の遊技機用基板ケースによれば、ケース蓋の2重の側壁部分である内方の第2壁に形成したヒンジ軸を、ケース基体の底板の端の位置から外方へ延設する顎部と一体をなす弧状のヒンジ軸受に嵌合させることで、ケース蓋とケース基体とを開閉揺動可能に接続するヒンジ機構を構成する。これにより、ヒンジ機構をケース蓋の第1壁の内側である基板ケース内に設けたので、ヒンジ機構を破壊する等の不正行為を防止し、基板ケースの不正開放を困難にする。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

請求項2に記載の発明は、請求項1に記載の遊技機用基板ケースであって、前記ケース蓋の前記第1壁と前記第2壁とが対向する隙間の所定箇所に、当該側壁部分の端辺と端を同じくすることで前記顎部の過度の挿入を規制するリブを設けたことを特徴とする。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

請求項2に記載の遊技機用基板ケースによれば、ケース蓋の2重の側壁部分である第1壁と第2壁との隙間にリブを設けたので、ケース蓋のヒンジ軸をケース基体のヒンジ軸受に嵌合する際に、ケース基体の顎部が当該隙間に入り込まないように規制する。したがって、ケース蓋を閉じる際にケース基体の顎部とケース蓋の側壁部分とが干渉せず、これらの開閉動作を円滑にする。また、ケース基板の組み立て作業も容易になる。